

グリッドプログラミング環境(1)

建部修見

筑波大学システム情報工学研究科
コンピュータサイエンス専攻

概要

● グリッド技術とは？

- ▶ 計算グリッド
- ▶ データグリッド
- ▶ アクセスグリッド

● グリッド技術とその要素技術

- ▶ 単一認証技術
- ▶ 高速広域データ転送技術
- ▶ 情報サービス
- ▶ 資源管理

● オープングリッドフォーラム (OGF)

● グリッド基本ソフトウェア

- ▶ Globus

● グリッドプログラミング

- ▶ コンポーネントモデル
- ▶ MPI
- ▶ GridRPC
- ▶ Grid Datafarm

Grid Computing in the News

BusinessWeek online
JUNE 3, 2002
INFORMATION TECHNOLOGY
Who Needs Supercomputers?
Grid software lets companies tap other machines in their network for

GRID COMPUTING PLANET.COM
management | Networking & Communications | Web Development | Hardware & Systems | Software Development
Researcher Achieve Production Grid Breakthrough
By [Paul Shread](#)

PHYSICS TODAY.org
Search []
FEATURE ARTICLES | PHYSICS UPDATE | LETTERS | SEARCH & DISCOVER
Feature Article
The Grid: A New Infrastructure for 21st Century Science
As computer networks become cheaper and more powerful, a new computing paradigm is poised to revolutionize science and engineering.
[Ian Foster](#)

AN MIT ENTERPRISE TECHNOLOGY REVIEW
Emerging Technologies and Their Impact
Home | Browse by Topic | Focus On | Current Issue | Archive | Opinions/Forums | Events | TR STORE
THE TR PATENT SCORECARD 2002
Search the top patentees in major high-tech industries

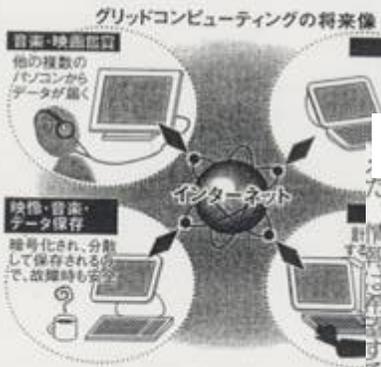
ZDNet News
Technology News Now
Hardware
Grid computing earns a living
By [Stephen Shankland](#)
Special to ZDNet News
February 21, 2002, 4:00 AM PT
Is grid computing in your company's future?

Slide courtesy by F.Berman, SDSC

最近の新聞記事から

読売新聞 2002年3月26日(夕刊)

世界のパソコン、共同で計算 普及始まった グリッドコンピューティング



日本経済新聞 2001年12月30日

産総研が新拠点 産学に参加要請

【筑波】経産省傘下の研究機関である産業技術総合研究所（茨城県つくば市）が、コンピュータとアロイド（高速大容量）を融合した情報技術（IT）を開発する「グリッド研究センター」を発足した。大手の通信事業者やコンピュータメーカー

日経産業新聞 2002年5月15日

「グリッド」研究 初の産学協同

富士通、NEC、日立など

グリッドコンピューティングの主なプロジェクト
<日本>
・ITBL...スーパーコンの共同利用
・つくばWAN...スーパーコンの共同利用
<米国>
・テラグリッド...40万台の超高速通信網整備
・グローブス...基礎ソフトウェア開発
・グリッド物理ネット...物理実験のデータ解析
・南カリフォルニア地震センター...地質学の計算モデル作り

通信で複数のコンピュータをつないで利用する「グリッドコンピューティング」と呼ばれる情報技術（IT）が台頭してきた。大規模な計算を効率よく行える。欧米の研究が先行していたが、日本でも巻き返しの機運が盛り上がりつつある。

文部科学省国立情報学研究所は1月初め、世界最高速の研究用光通信網「スーパーサイネット」の運用を始めた。幹線の回線速度は、や大阪大学など全国十一カ

欧米先行 日本巻き返し

▼グリッドコンピュータを高速ネットワークで結ぶ。パソコンやスーパーコンピュータなどの計算機と、大規模なデータベース、実験・観測装置など所に接続拠点を設けた。

同ネットワークでITBL（ITによる仮想研究所）と呼ぶ研究が本格化する。日本原子力研究所など六機関が参加。スーパーコンピュータを共用して遠隔実験、新材料探索などの応用を探る。将来は全国のスーパーコンを統合、あらかも一つの巨大計算機のように使いこなすのが目標だ。

研究所などのスーパーコンピュータを高速ネットワークで結び、すべてを統合して及び、もともと電力網が稼働する営業が、通信や計算に転用された。

研究所などのスーパーコンピュータを高速ネットワークで結ぶ。パソコンやスーパーコンピュータなどの計算機と、大規模なデータベース、実験・観測装置など所に接続拠点を設けた。

同ネットワークでITBL（ITによる仮想研究所）と呼ぶ研究が本格化する。日本原子力研究所など六機関が参加。スーパーコンピュータを共用して遠隔実験、新材料探索などの応用を探る。将来は全国のスーパーコンを統合、あらかも一つの巨大計算機のように使いこなすのが目標だ。

日本経済新聞 2002年2月4日

産官学で技術力底上げ

グリッドコンピューティング

複数機を回線接続・効率処理

犯人... 細かく刻...

完全予測

2012年の世界は...

地球の未来図

クロン人間の自爆テロリストが現れ、オリンピックでは遺伝子改造した選手が活躍、世界経済はヨーロッパの天下に... 研究者・企業・国際機関への取材から10年後を大予測

分譲独立 北海道が日本から「地域分権」する日

コロンビア 第4の波を生む情報網「グリッド」

高層化社会 シルバーパワーで奇跡の経済再生へ

通信子研究 禁断の科学の甘くて苦すぎる果実

中国 イラク敗戦とアラブ分裂で大混迷 イスラム教「文明の衝突」は起きない



秒読みイラク攻撃「宣伝戦争」の裏側

WORLD AFFAIRS

- ▶ 政策論争なきドイツ総選挙
- ▶ フセインとビンラディンを結ぶ線
- ▶ 見えてきたアルカイダの組織網
- ▶ 解明されないカリスマ主婦の疑惑

コラム・オン・ジャパン

高齢化「危機」は大嘘だ
S・ヴォーゲル(カリフォルニア大学バークレー校准教授)

Newsweek

9・25号(9月18日発売) / 毎週水曜日発売 / 定価400円(税込) www.nwj.ne.jp

Internet

Life in the Grid

第4の波を生む 究極のネット

コンピュータ ネットワークが進化し
パソコンや家電製品、人間が結びつく
そんな「グリッド」システムが生むのは
便利で快適な暮らしか、超管理社会か

今

朝のラッシュアワーから10年後の東京。朝のラッシュアワーに、車で成田空港に向かう。自動運転システムのおおかげで、車は順番に流れている。

腕時計のボタンを押すと、インドネシアの鉱山での採掘作業の様子がディスプレイに映し出される。腕時計には埋め込まれた「電子アシスタント」に、為替の変動が経営投資に与える影響について尋ねると、答えが瞬時に返ってくる。

電子アシスタントに、眼科の予約も頼んでおこう。先日、視力のデータが眼鏡から病院に送られた後、医師から検査の必要があるとの連絡が来ていた。

成田に向かうと、フライトが遅れていると車が告げる。便を変えるかと思われるが、ひと足踏みで「グリッド」に接続するインターネットが「グリッド」に接続すれば、こんな心配も多分消滅してはなくなる。

パソコンの処理能力の95%は未使用

グリッドはその余った処理能力をまとめて使う

グリッドとは、地球規模のネットワークで、可能な限り多くの人間とマシンを結びつけたシステム。通信機能を備えた超小型チップが、ほぼあらゆる物に、場合によっては人間にも、埋め込まれることになる。1台のコンピュータが、すべてのコンピュータの処理能力を有することも可能だ。

すでに一部の企業は、社内LAN規模のグリッドを形成している。これから生まれる地球規模のグリッドは、その映画の「惑星」としてより登場する。ネットワーク映画では、人間を支配しているのはネットワークやマシンだ。

「グリッド」を想像したければ「マトリックス」や「マイノリティ・リポート」(日本



コンピュータの発展
インターネットの普及
インターネットの普及は、コンピュータの発展を促進している。インターネットは、世界中の人々を結びつけ、情報の交換を容易にしている。インターネットは、コンピュータの発展を促進している。インターネットは、世界中の人々を結びつけ、情報の交換を容易にしている。

Grid Computing

グリッドコンピューティングの可能性

今、世界中でグリッドコンピューティングと呼ばれるシステムが注目を集めている。ネットワークを介して複数のコンピュータを網の目のように結ぶことで、従来以上に高性能なコンピュータを作り上げる新技術だ。個々のコンピュータの空いている処理能力を結集して大規模データの高速処理を行う。日本でも高度な研究が注力になってきた。

ゲノムの解析や宇宙探査などさまざまな研究や問題解決につながるものと期待されている。



文・西野 幸広 図解・浅井 幸司

グリッドコンピューティングとは、ネットワークを介して複数のコンピュータを網の目のように結ぶことで、従来以上に高性能なコンピュータを作り上げる新技術だ。個々のコンピュータの空いている処理能力を結集して大規模データの高速処理を行う。日本でも高度な研究が注力になってきた。

日経トレンディ 11月号臨時増刊号 pp.120-123

グリッド技術とは？

- スーパーコンピュータを高速ネットワークで接続して共有すること？

- ▶ <http://www.itbl.jp/>

- SETI@Home、UD Cancer research project、Fight AIDS@homeなどのこと？

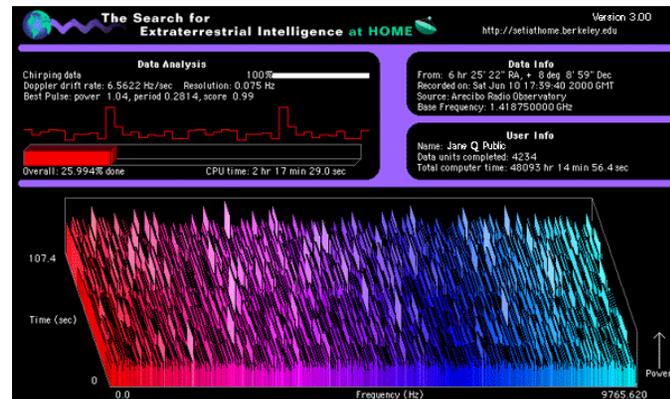
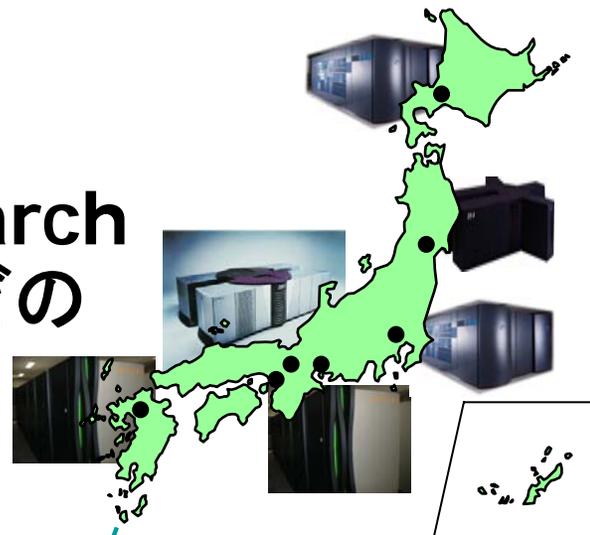
- ▶ <http://setiathome.ssl.berkeley.edu/>

- ▶ <http://members.ud.com/projects/cancer/>

- ▶ <http://www.fightaidsathome.org/>

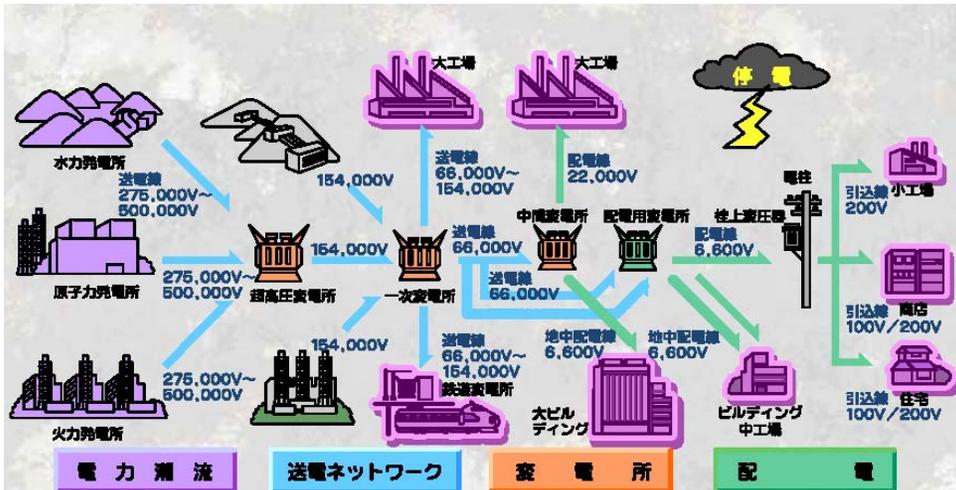
- 次世代インターネット技術？

- ▶ IPv6, QoS, IPsec, . . .



グリッド

- 90年半ばに作られた言葉
- 電力の送電線網 (Electric Power Grids) との類似性
- 送電線網は過不足のない電力供給、トラブル時における別ルートへの確保など重要な役割。監視され、制御され、運用される。
- 発電装置、電気製品だけではなく送電線網は重要な発明！
- 現在の計算基盤は20世紀初めの送電線網のなかった電力の状況と似ている



グリッドの定義(1999年)

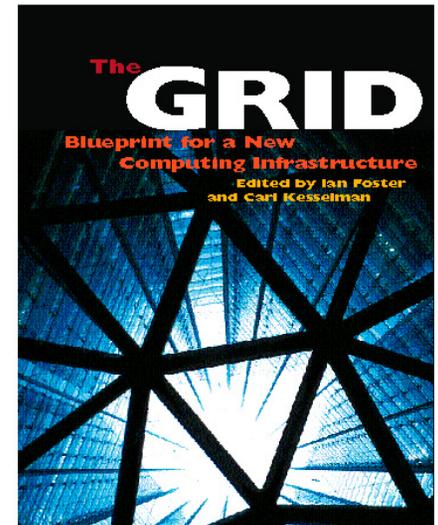
- 計算グリッドとは、**高性能計算能力**へのアクセスのためのソフトウェア、ハードウェアである

- ▶ 信頼できる, 一貫した, 広範囲の, 安価な

A computational grid is a hardware and software infrastructure that provides dependable, consistent, pervasive, and inexpensive access to high-end computational capabilities

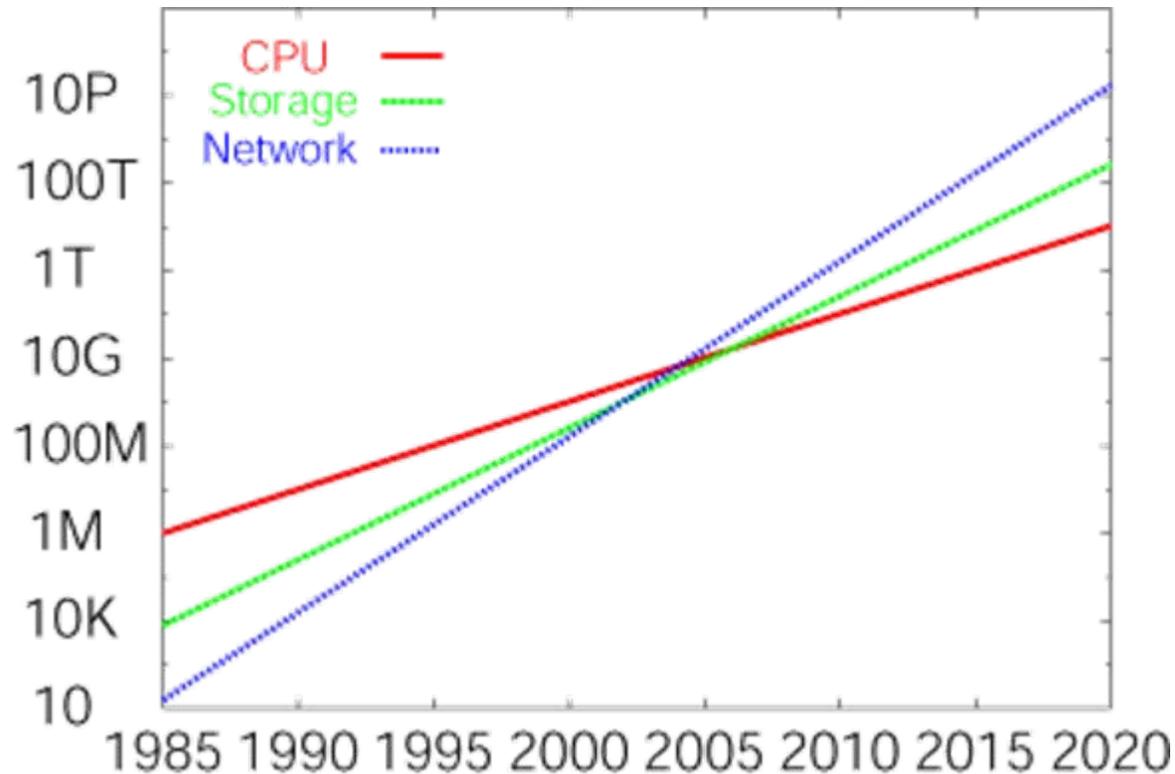
From "The GRID – Blueprint for a New Computing Infrastructure", 1999

<http://www.mkp.com/grids/>



今がそのとき：技術トレンド

- CPU speed doubles every 18 months (Moore's law)
- Storage capacity doubles every 12 months
- Network speed double every 9 months



技術トレンドのスナップショット

2005

- ▶ CPU 10 Gflops
- ▶ Network 16 Gbps
- ▶ Storage 1000 Gbytes

2010

- ▶ CPU 100 Gflops
- ▶ Network 1600 Gbps
- ▶ Storage 32000 Gbytes

CPU << Storage << Network

ネットワークがふんだんに、ただになる！

- 5年で100倍
- 手元の資源にしばられない
- 広域に存在する計算資源、ディスク資源、可視化装置、ベクトル計算機、専用計算機、(大規模、広域分散)実験測定機器、研究者、アプリケーション、ライブラリ、データなどなど利用することが可能となる！

The Cloud (2000)

Computers, storage, sensors, networks, ...
Sharing always conditional: issues of trust, policy, negotiation, payment, ...

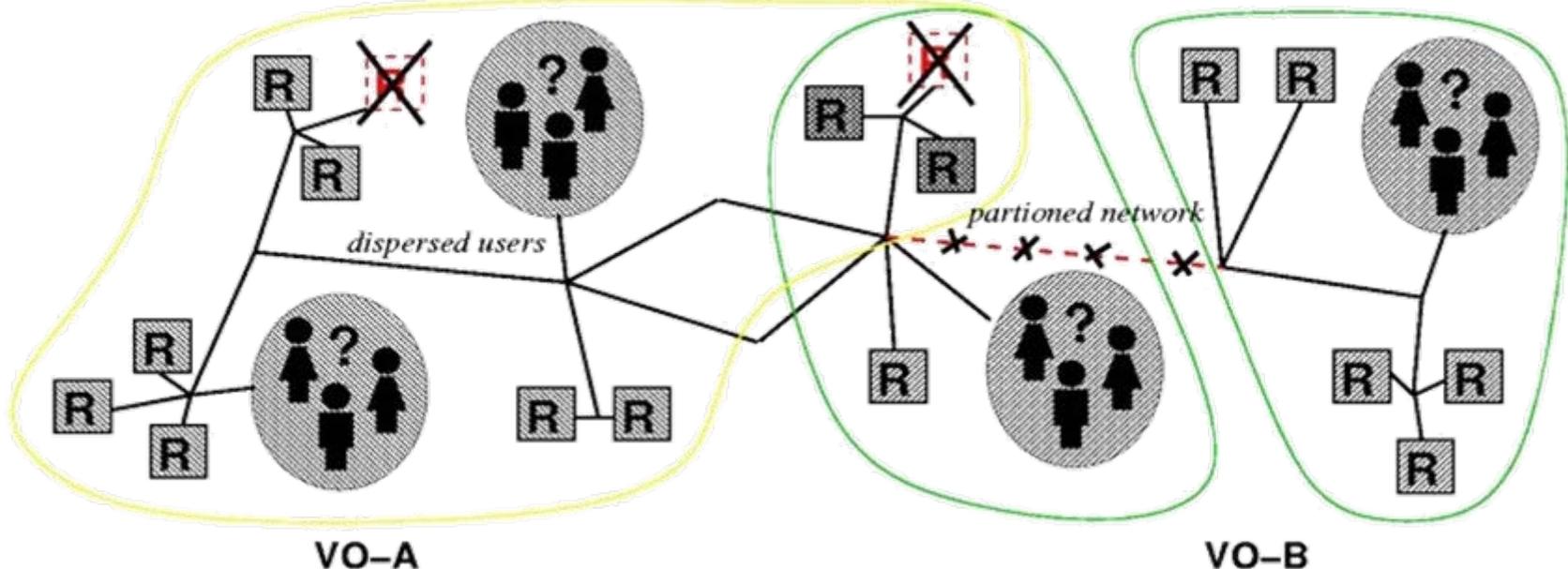
Beyond client-server:
distributed data analysis,
computation, collaboration, ...

Resource sharing & coordinated problem solving in dynamic, multi-institutional virtual organizations

► Communities committed to common goals

- ⊗ Assemble team with heterogeneous members
- ⊗ Distribute across geography and organization
- ⊗ Assuming the absence of central location, central control, omniscience, existing trust relationships, ...

Community overlays on classic org structures
Large or small, static or dynamic



仮想組織とグリッド技術

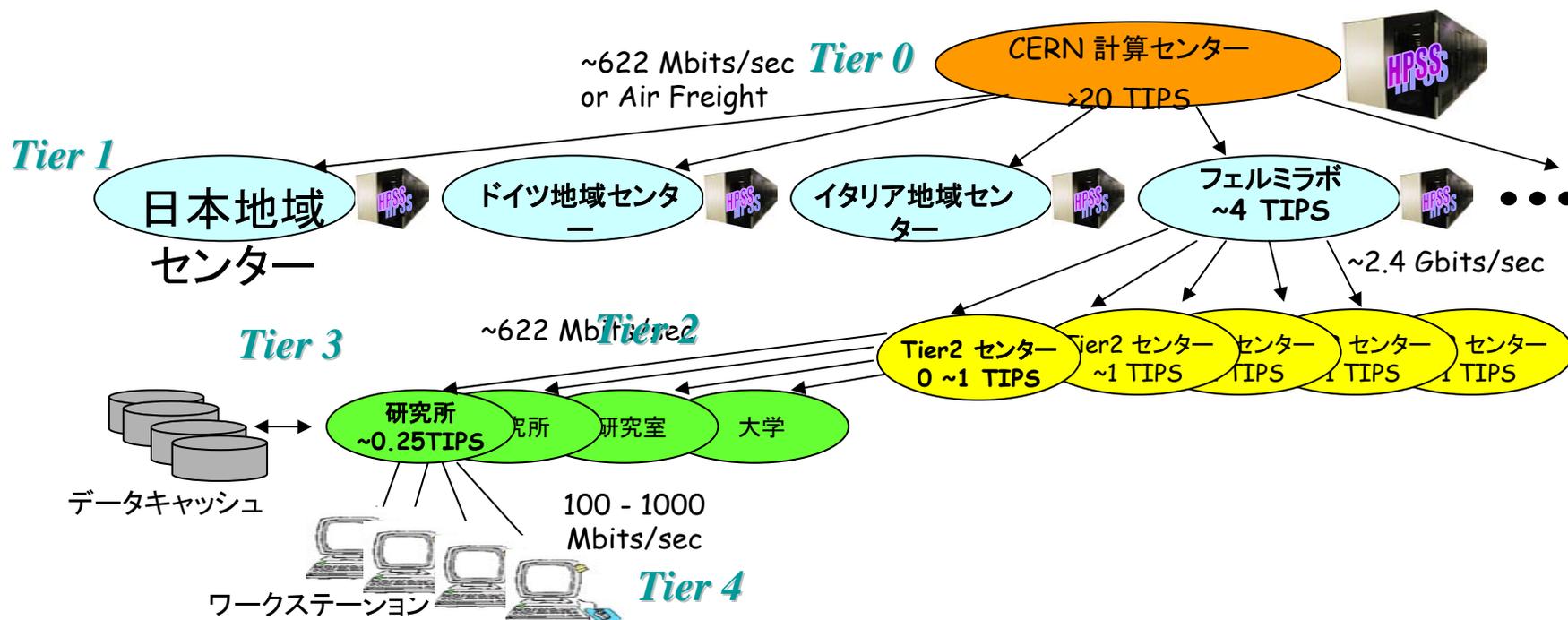
- 動的で柔軟な資源の集合
 - ▶ 独立に管理されている複数の組織を含む
 - ▶ 一つの組織が複数の仮想組織に所属可能
- 大規模、小規模
- 安全に制御された資源共有
 - ▶ 計算機、ディスク、センサ、実験装置、アプリケーション、データなど
- 資源共有は条件付なことも
 - ▶ 空いている時間だけ、午前中だけ、一部分の計算機だけ、実行するプログラムの制限などなど
- 共有の形式は、クライアント・サーバだけではなくピアトゥーピアなど
- 柔軟に仮想組織を形成し、安全に資源を共有するための技術
 - ▶ 安全な認証と適切な権限の付加
 - ▶ 資源のアクセス方式、発見方法
 - ▶ 耐故障性
 - ▶ 相互運用性、共通のプロトコル

想定されるシナリオの例(1)

- 会社A、Bによる小さな仮想組織。会社Aのスーパーコンピュータを利用してシミュレーション。結果を会社Bの可視化装置で可視化。それぞれの社員が安全に共有して解析する。
- 部屋の密閉性が高く、換気システムの導入を検討。部屋が入り組んでいるため、どこに取り付けると効率的か明らかではない。ASPを利用して、流体シミュレーション。結果をSSPに格納し、住宅会社に転送。

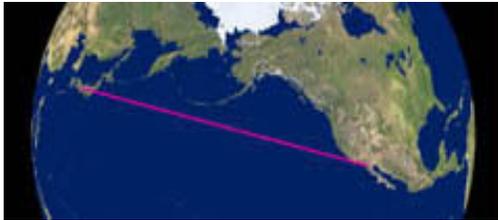
想定されるシナリオの例(2)

- 欧州CERNによるLHC加速器実験。20カ国3000人規模の研究者と階層的な地域計算センターからなる仮想組織。年間数ペタバイトの実験データ解析およびシミュレーションによる検証を行う。



Initial Grid application examples

APAN Trans-Pacific Telemicroscopy Collaboration, Osaka-U, UCSD, ISI

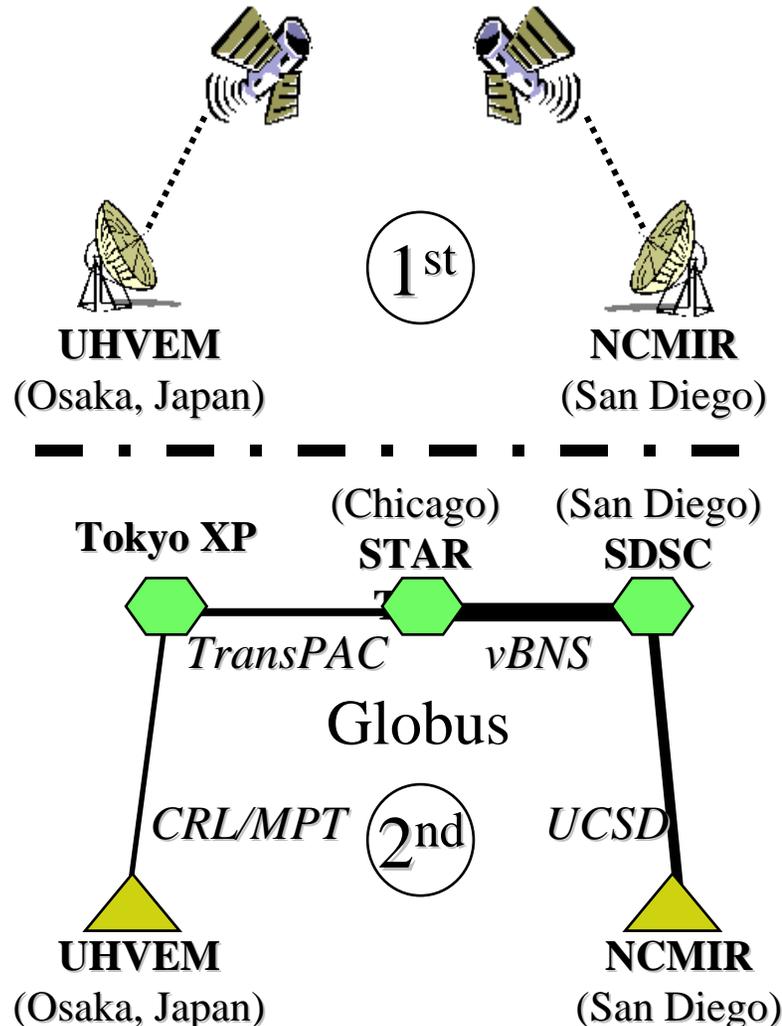
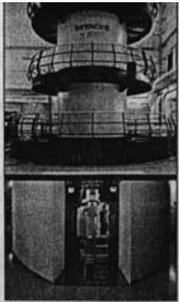


NET NEWS
Microscopy Across an Ocean

A big push by biologists to use computer networks to operate rare instruments from afar passed a major milestone on 25 June: Scientists took a spin on the world's most powerful electron microscope in Japan—while sitting 6000 kilometers away in California.

Six years ago, University of California, San Diego, neuroscientist Mark Ellisman thrilled audiences at a conference in Chicago by using the Internet to control an electron microscope in San Diego. Several U.S. agencies jumped in to fund projects for operating microscopes by remote control, and by now at least a dozen groups are doing so in the United States. Ellisman's team has since moved on to the Mount Everest of microscopes: Osaka University's Ultra High Voltage Electron Microscope, a 3,000,000-volt behemoth that can create three-dimensional images from much thicker samples (such as biological cells) than ordinary microscopes can. Ellisman and his U.S. and Japanese colleagues wondered if they could operate this instrument's roomful of controls from across the Pacific Ocean.

They showed they could. Over 5 hours, San Diego scientists imaged nerve cells from a rat and a frog without setting foot in Japan, controlling things like focus and specimen position across a private data line while the images came in across a satellite video link. Ellisman says this lays the groundwork for researchers all over the United States and Japan to borrow each others' specialized microscopes, probably via a high-speed Internet link, "within a year or two."



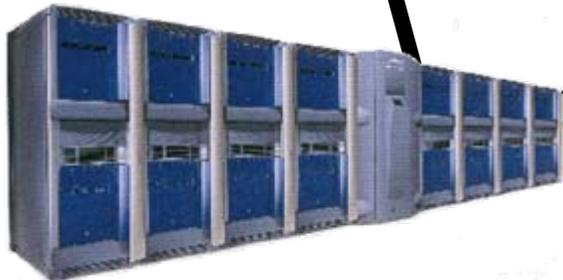
(slide courtesy of Mark Ellisman@UCSD)

Online Access to Scientific Instruments

Advanced Photon Source



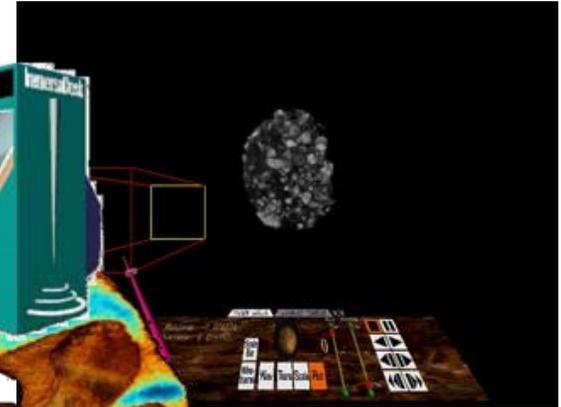
real-time collection



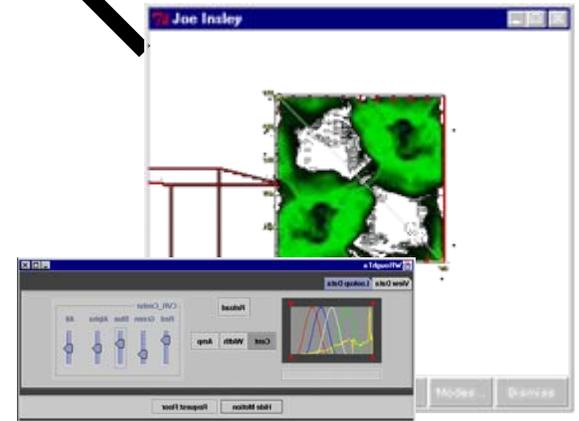
tomographic reconstruction

wide-area dissemination

archival storage



desktop & VR clients with shared controls

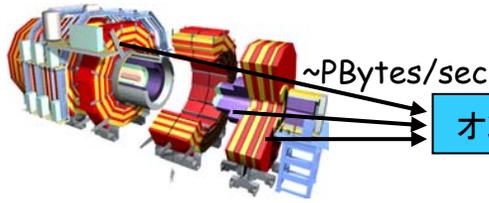


DOE X-ray grand challenge: ANL, USC/ISI, NIST, U.Chicago



高エネルギー物理解析モデルスキーム (LHC ATLAS, CMS, ...)

資源階層 (Tier0, Tier1, Tier2, ...)



オンラインシステム
~100 MBytes/sec

1 TIPS = 25,000 SpecInt95
PC (1999) = ~15 SpecInt95

Bunch crossing per 25 nsecs.
100 triggers per second
Event is ~1 MByte in size

オフラインファーム
~20 TIPS

~622 Mbits/sec or Air Freight
Tier 0

CERN 計算センター
~20 TIPS

Tier 1

日本地域
センター

ドイツ地域センタ
ー

イタリア地域セン
ター

フェルミラボ
~4 TIPS

Tier 2

Tier2 センター
0 ~1 TIPS

Tier2 センター
~1 TIPS

センタ
ー
1 TIPS

センタ
ー
1 TIPS

Tier 3

研究所
~0.25TIPS

データキャッシュ

100 - 1000
Mbits/sec

ワークステーション

Tier 4

Physicists work on analysis "channels".
Each institute has ~10 physicists working
on one or more channels
Data for these channels should be
cached by the institute server

Data Grid Projects in Japan

● ATLAS/Grid Datafarm

- ▶ AIST, KEK, Titech, UTokyo, . . .
- ▶ New Data Grid Architecture for Petascale data-intensive computing and its reference implementation (Gfarm)

● Japanese Virtual Observatory

- ▶ NAO, Titech, AIST, . . .
- ▶ Distributed databases, Common access method to multiwavelength databases, Statistical analysis

● NARC, Agriculture

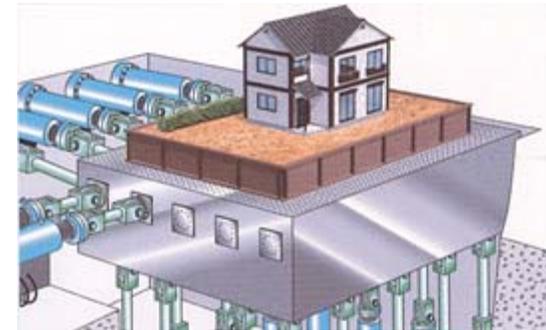
● RIKEN, JAIST, Genome Informatics

● Potential Projects

- ▶ Bosai, Earthquake measurement
- ▶ NASDA, SELENE Luna exploration

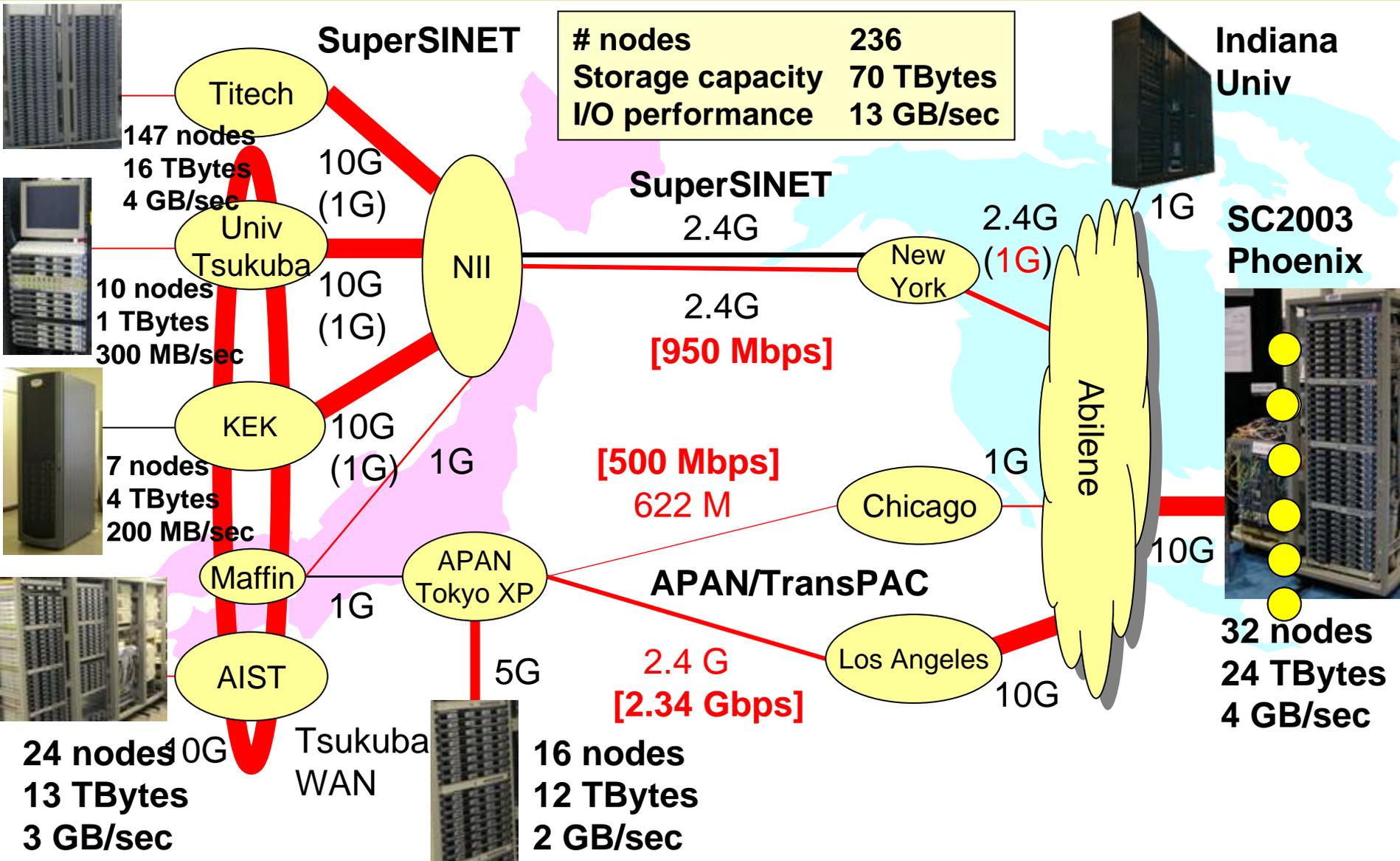


Subaru Telescope



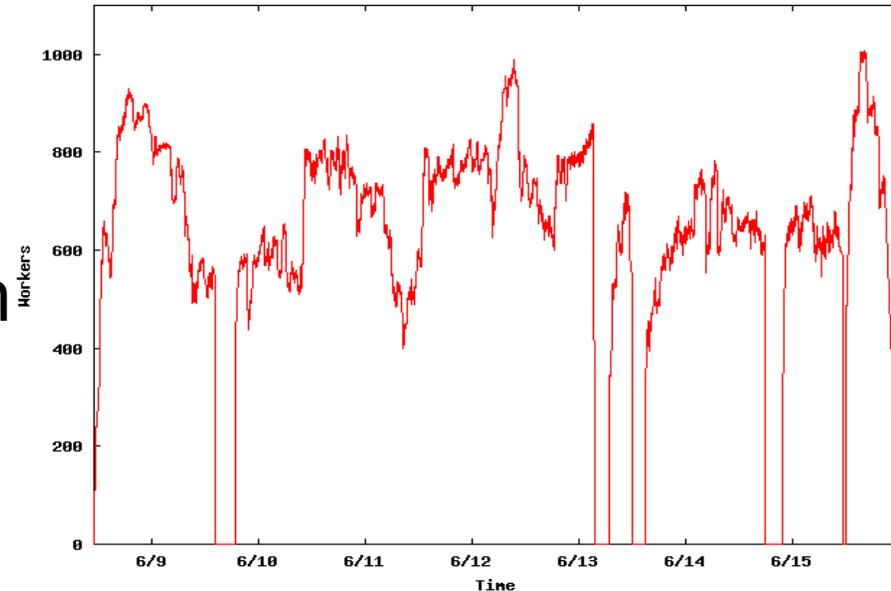
3D earthquake simulator in MIKI

Trans-Pacific testbed at SC2003



Mathematicians Solve NUG30

- Looking for the solution to the NUG30 quadratic assignment problem
- An informal collaboration of mathematicians and computer scientists
- Condor-G delivered 3.46E8 CPU seconds in 7 days (peak 1009 processors) in U.S. and Italy (8 sites)



14,5,28,24,1,3,16,15,
10,9,21,2,4,29,25,22,
13,26,17,30,6,20,19,
8,18,7,27,12,11,23

MetaNEOS: Argonne, Iowa, Northwestern, Wisconsin

Quadratic Assignment Problem (1)

● 場所の距離とファシリティ間のフローが与えられ、最適なファシリティの場所を決定する

● それぞれの場所の間の距離

- $d(1,2) = 22,$
- $d(1,3) = 53,$
- $d(2,3) = 40,$
- $d(3,4) = 55.$

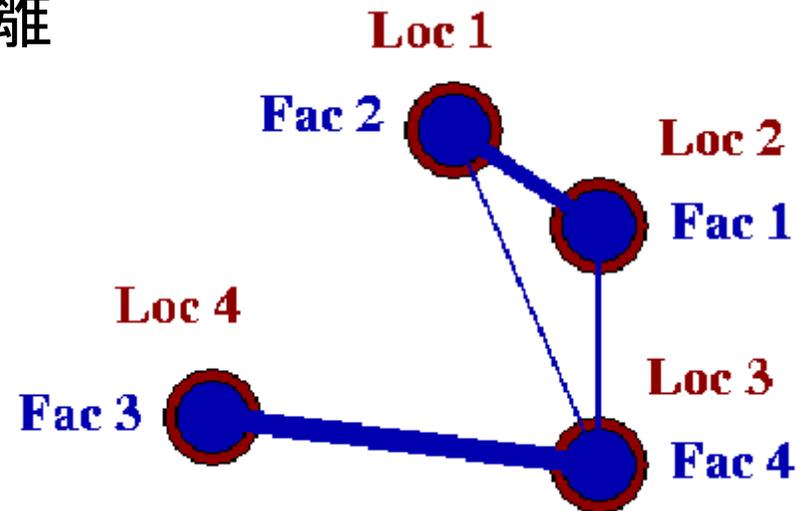
● ファシリティ間のフロー

- $f(2,4) = 1,$
- $f(1,4) = 2,$
- $f(1,2) = 3,$
- $f(3,4) = 4.$

最適解

2, 1, 4, 3

$$\begin{aligned} & d(1,2) * f(1,2) + d(1,3) * f(2,4) + d(2,3) * f(1,4) + d(3,4) * f(3,4) \\ & = \\ & 22 * 3 + 53 * 1 + 40 * 2 + 55 * 4 = 419. \end{aligned}$$



Quadratic Assignment Problem (2)

A Mathematical Formulation of the Quadratic Assignment Problem

Mathematically, we can formulate the problem by defining two n by n matrices: a flow matrix F whose (i,j) element represents the flow between facilities i and j , and a distance matrix D whose (i,j) element represents the distance between locations i and j . We represent an assignment by the vector p , which is a permutation of the numbers $\{1, 2, \dots, n\}$. $p(j)$ is the location to which facility j is assigned.

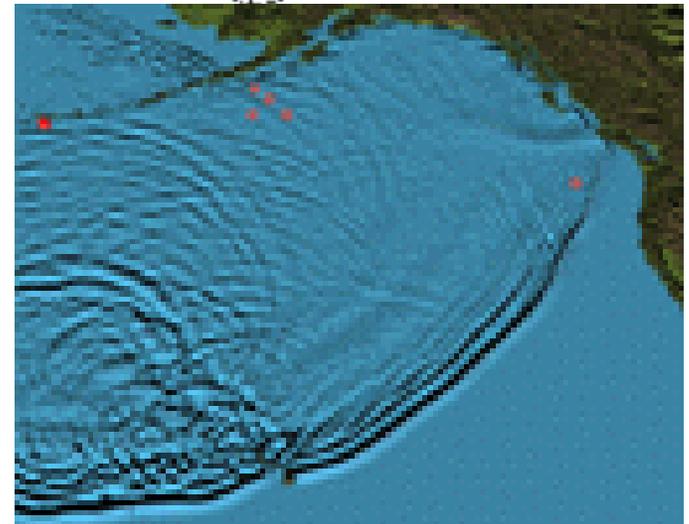
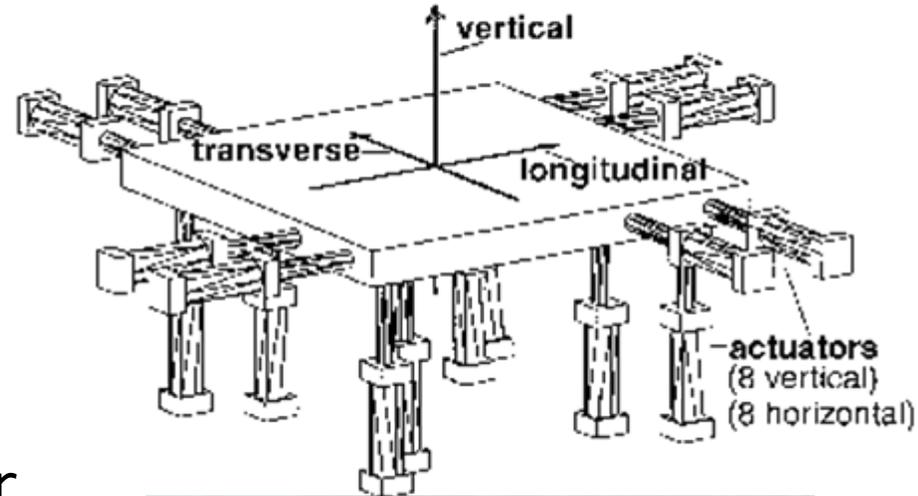
With these definitions, the QAP can be written as

$$\min_{p \in \Pi} \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n f_{ij} d_{p(i)p(j)}$$

The most effective algorithms for optimally solving quadratic assignment problems are based on [Branch and Bound](#).

Network for Earthquake Engineering Simulation

- NEESgrid: national infrastructure to couple earthquake engineers with experimental facilities, databases, computers, & each other
- On-demand access to experiments, data streams, computing, archives, collaboration



NEESgrid: Argonne, Michigan, NCSA, UIUC, USC

Home Computers Evaluate AIDS Drugs

Community =

- ▶ 1000s of home computer users
- ▶ Philanthropic computing vendor (Entropia)
- ▶ Research group (Scripps)

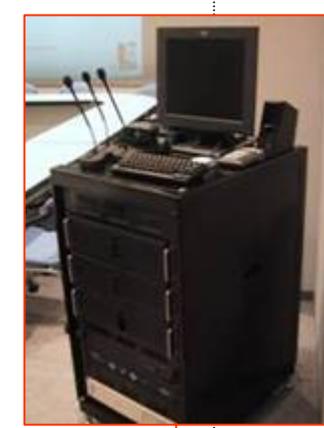
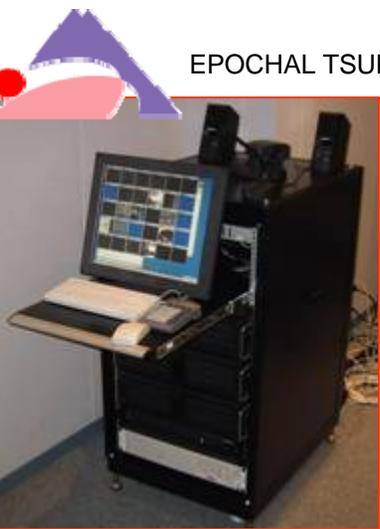
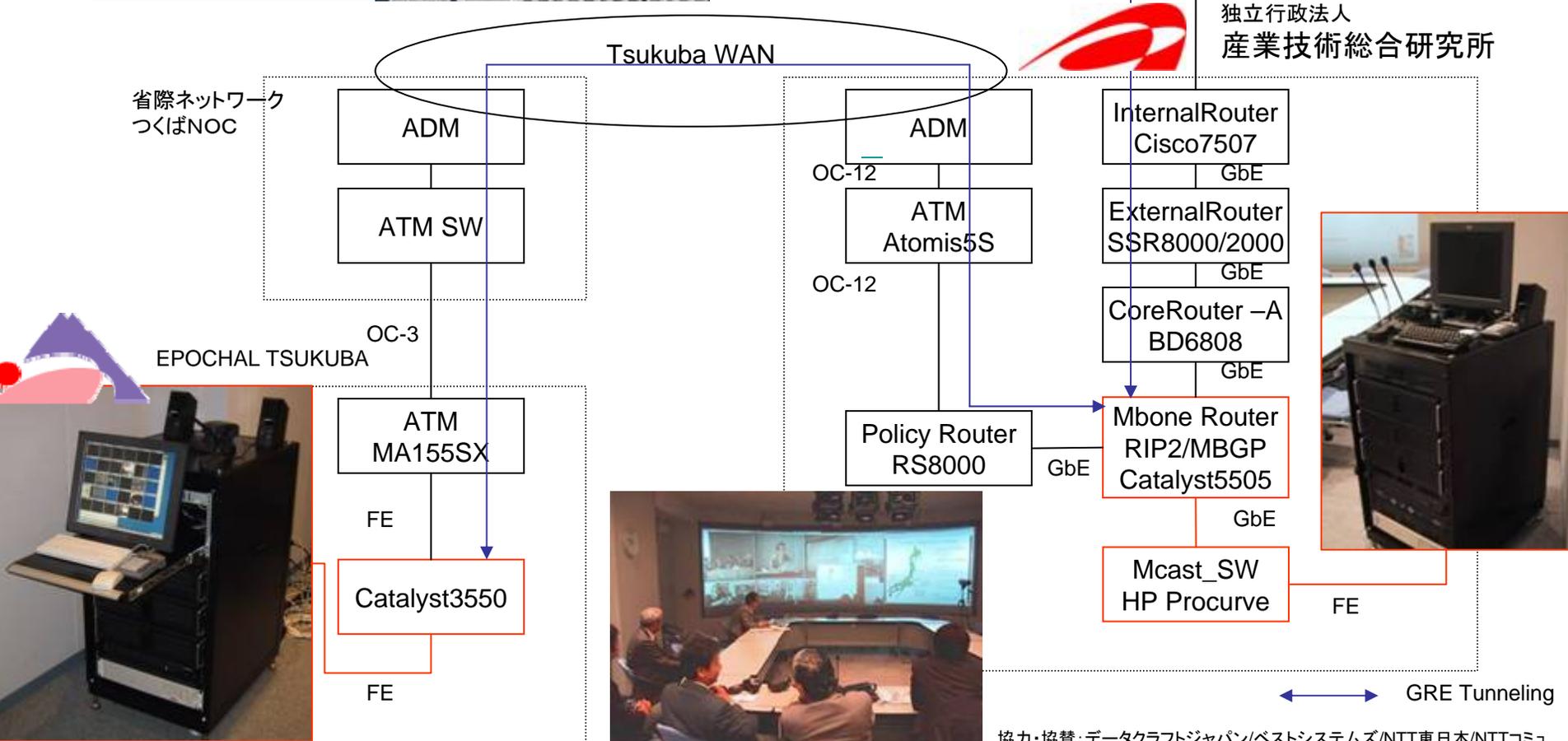
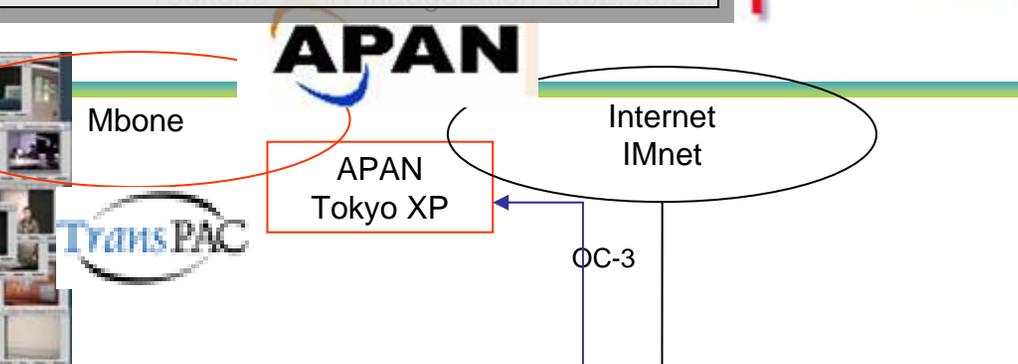
Common goal = advance AIDS research





Access Grid Demo Configuration

Tsukuba WAN Inauguration 2002.03.22.



協力・協賛: データクラフトジャパン/ベストシステムズ/NTT東日本/NTTコミュニケーションズ/省際ネットワーク/APAN協議会/つくば国際会議場

Broader Context

“Grid Computing” has much in common with major industrial thrusts

- ▶ Business-to-business, Peer-to-peer, Application Service Providers, Storage Service Providers, Distributed Computing, Internet Computing...

Sharing issues not adequately addressed by existing technologies

- ▶ Complicated requirements: “run program X at site Y subject to community policy P, providing access to data at Z according to policy Q”
- ▶ High performance: unique demands of advanced & high-performance systems

Grid Architecture and standard

グリッド技術に対する要求

- 資源の所有者と利用者に関する**多様なセキュリティとポリシー**に対応
- **多種多様の資源**、共有の形式に対し十分な柔軟性をもつ
- **多くの資源、多くの利用者、多くのプログラム**に対しスケールする
- **動的な資源の管理**
 - ▶ 資源の動的拡張性
 - ▶ 耐故障性、自己組織化
 - ◎ 資源の動的な変化は日常茶飯事
- **大容量データ処理、大規模計算**を効率的に実行する
 - ▶ HPC、HTC
 - ▶ 高バンド幅+高遅延対応
- 異なるグループが柔軟に資源共有するための**相互運用性**
 - ▶ 多種多様の資源、ポリシー、方式に対応
 - ▶ 例えば、個人認証の方式、通信方式、資源の記述方式
- 開発の重複を防ぐための**共通基盤サービス**
 - ▶ 例えば、遠隔プログラム起動のための、ツールやアプリケーションに依らない共通のサービス、プロトコル
 - ▶ 例えば、運用コストのかかる認証局

標準に基づくグリッドアーキテクチャ

● 標準プロトコル、標準サービスの開発

- ▶ 遠隔資源への共通のアクセス方式
- ▶ 既存のプロトコルに基づく

● グリッドAPI, SDKの開発

- ▶ グリッドプロトコル、サービスへのインターフェース
- ▶ アプリケーション開発に対するより高いレベルの抽象性を提供

● 成功例: インターネット

- ▶ HTTP and HTML
- ▶ TCP/IP, telnet, ftp, mail, . . .

重要なポイント

🌐 Internet Protocol, Web Servicesに基づく

- ▶ TCP/IP, WSDL, SOAP, etc.

🌐 グリッドに必要な最小限のサービスを定義

- ▶ Grid Security

- ▶ Addressing – WS-A (WS-Addressing)

🌐 <http://www.w3.org/Submission/ws-addressing/>

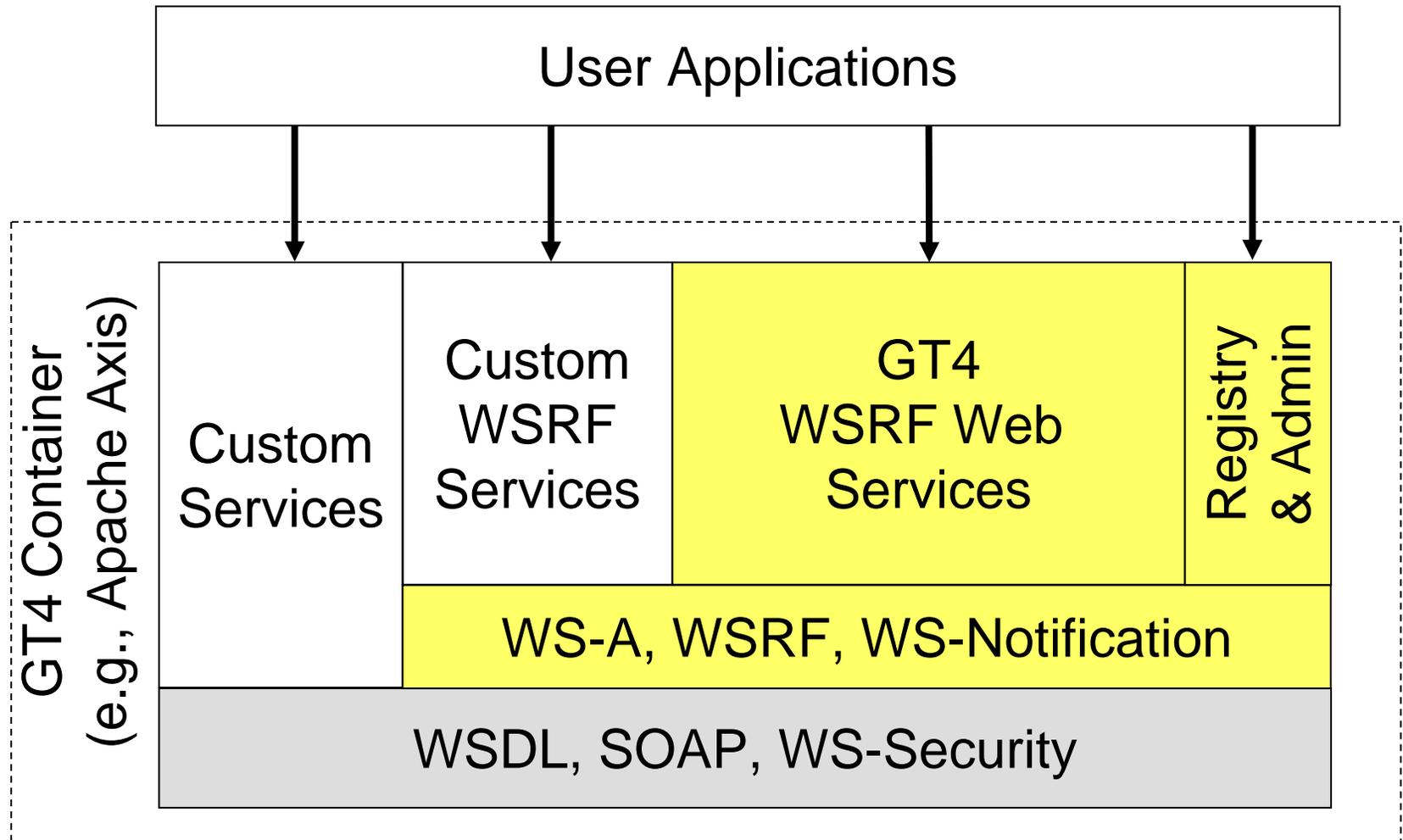
- ▶ State – WSRF (WS Resource Framework)

🌐 <http://www.oasis-open.org/committees/wsrf/>

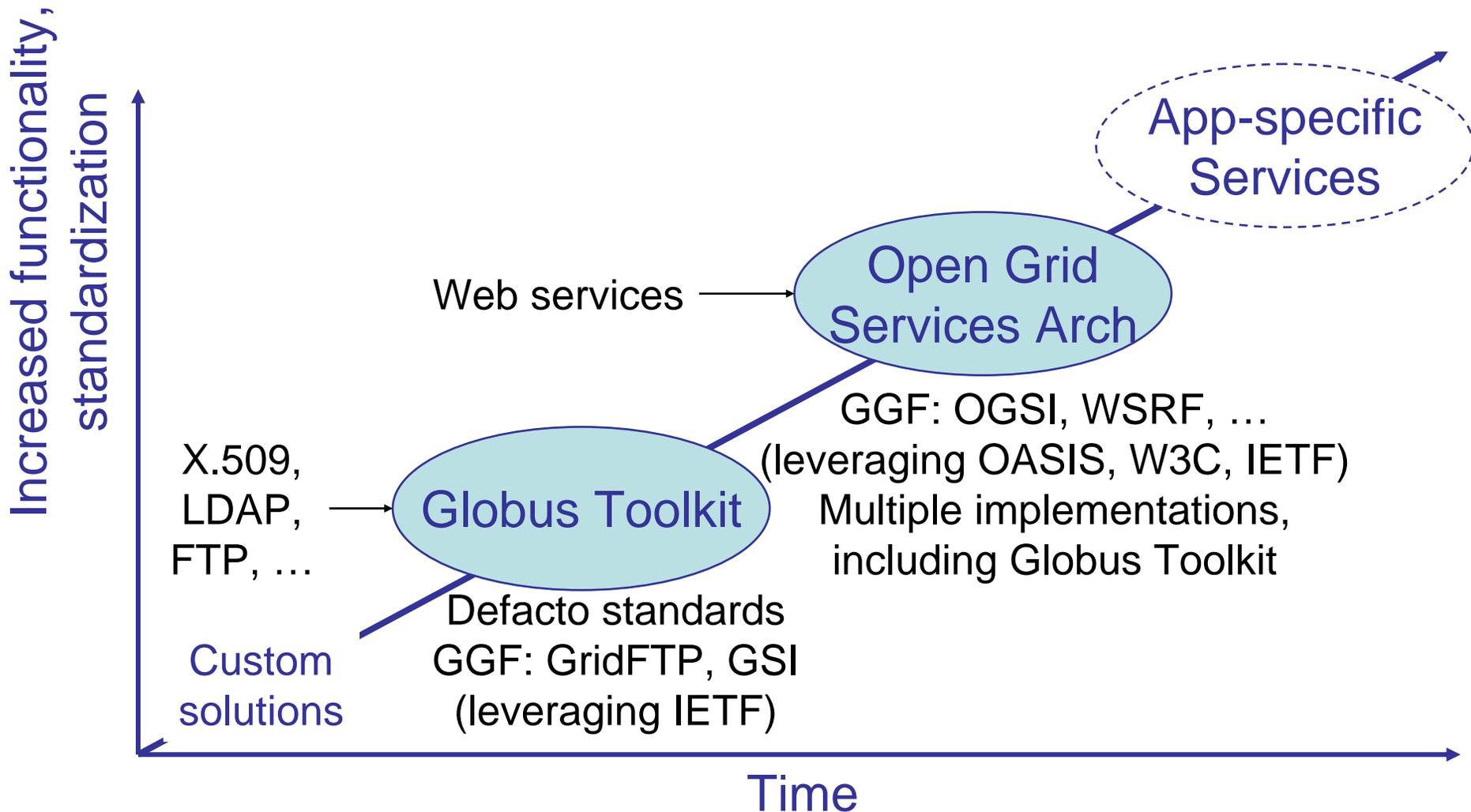
- ▶ Notification – WS-N (WS-Notification)

🌐 <http://www.oasis-open.org/committees/wsn/>

GT4 & Web Services: Uniform State, Security, Mgmt



参考: Evolution of the Grid



参考文献：グリッド全般

- Ian Foster, Carl Kesselman. Computational Grids. In The Grid: Blueprint for a Future Computing Infrastructure, Morgan-Kaufmann, 1999.
http://dsl.cs.uchicago.edu/papers/gridbook_chapter2.pdf
- I. Foster, C. Kesselman. The Grid 2: Blueprint for a New Computing Infrastructure, Second Edition, ISBN 978-1-55860-933-4, 2003. <http://www.mkp.com/grid2>
- I. Foster, C. Kesselman, S. Tuecke. The Anatomy of the Grid: Enabling Scalable Virtual Organizations.. International J. Supercomputer Applications, 15(3), 2001.
<http://www.globus.org/research/papers/anatomy.pdf>
- I. Foster, C. Kesselman, J. Nick, S. Tuecke. The Physiology of the Grid: An Open Grid Services Architecture for Distributed Systems Integration.; June 22, 2002.
<http://www.globus.org/research/papers/ogsa.pdf>

参考文献: Web Services

- Web Services Addressing, <http://www.w3.org/Submission/ws-addressing/>
- Web Services Resource Framework, <http://www.oasis-open.org/committees/wsrf/>
- Web Services Notification, <http://www.oasis-open.org/committees/wsn/>

参考文献：グリッド基本ソフトウェア

-  Ian Foster and Carl Kesselman. Globus: A Metacomputing Infrastructure Toolkit. International Journal of Supercomputer Applications, 11(2):115-128, 1997.
<ftp://ftp.globus.org/pub/globus/papers/globus.ps.gz>
-  Andrew Grimshaw, Michael Lewis, Adam Ferrari, and John Karpovich. Architectural Support for Extensibility and Autonomy in Wide-Area Distributed Object Systems. University of Virginia CS Technical Report CS-98-12, June 1998.
<http://www.cs.virginia.edu/~legion/papers/CS-98-12.ps>

グリッド要素技術

グリッドの要素技術

- グリッドセキュリティ (Grid Security Infrastructure, GSI)
- ローカル情報サービス (Grid Information Service, GRIS)
- 広域高速データ転送 (GridFTP)
- 資源管理マネージャ (Grid inetc, GRAM)
- 情報サービスの集約 (Grid Index Information Service, GIIS)
- リソースブローカ (Condor-G, Nimrod-G)
- データ複製管理サービス
- コアロケーション、コリザベーションサービス
- ワークフロー管理サービス
-

グリッドセキュリティ(GSI)

● 単一認証技術

- ▶ 単一のユーザ認証(パスフレーズ、one-timeパスワード入力)により数十、数千、数万の資源に対するアクセス認証を行う

● 証明書の委譲

● 委譲された証明書の制限

- ▶ 有効期間、委譲の深さ、機能の制限
- ▶ 証明書の悪用による被害を軽減

● 動的なプロセス、サービス生成に対応

● 秘密鍵の保護

公開鍵暗号系 (public-key encryption)

- 非対称暗号系 (asymmetric encryption) とも
- 公開鍵 e と秘密鍵 d
- 平文 $- e \rightarrow$ 暗号文 $- d \rightarrow$ 平文
- e から d の計算は計算量的に非現実的
- 公開鍵は秘密にする必要はないため、提供が容易
- 発信者認証、改竄発見のためには、電子証明が必要
- DESなどの対称暗号に比べ遅いため、引き続くデータ転送のための対称暗号の鍵の送信、クレジットカード情報など短いメッセージに利用される

- [Handbook of Applied Cryptography](#), by A. Menezes, P. van Oorschot, and S. Vanstone, CRC Press, 1996
<http://cacr.math.uwaterloo.ca/hac/>

電子署名 (digital signature)

- 受け取った情報が改竄されていないことを保障する
- 公開鍵暗号においては、情報のハッシュ値を秘密鍵で暗号化して付加する
- 受信側は情報のハッシュ値と付加されたハッシュ値を公開鍵で復号化したものと比較する

Globus Toolkitにおけるセキュリティ(GSI)

- 基本は公開鍵暗号 + X.509証明書 + SSL (Secure Socket Layer)
- 相互認証と代理証明書による証明書の委譲
- 公開鍵暗号(非対称鍵)
 - ▶ 公開鍵はデータの暗号化に利用される
 - ▶ 秘密鍵は公開鍵で暗号化されたデータの復号に用いる
- 認証を受けるエンティティ(ユーザ、計算機等)は認証局によって署名された証明書を保持している
- X.509 証明書は次のものを含んでいる:
 - ▶ エンティティのsubject名 (user ID, host name)
 - ▶ その公開鍵
 - ▶ 証明書に署名している認証局(CA)のID
 - ▶ 認証局(CA)からの“署名”
 - Ⓢ 証明書が認証局から発行されていることを認める
 - Ⓢ Subject名の保証
 - Ⓢ 公開鍵とsubject名との対応の保証

証明書

Subject DN

公開鍵

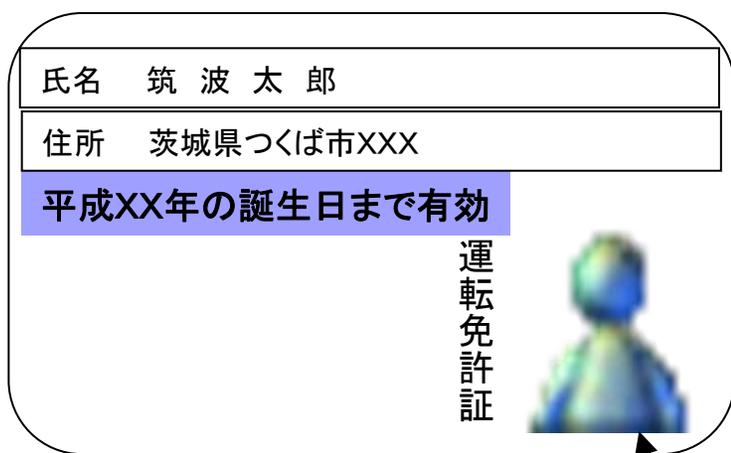
Issuer (CA)

Digital Signature

証明書

● 証明書

- ▶ 運転免許証などと同じようなもの。免許証における写真(本人であることを確認する手段)が、秘密鍵に相当
- ▶ 認証局により署名される
- ▶ 証明書が信用してもらえるかどうかは(サービスを提供する)相手に依存



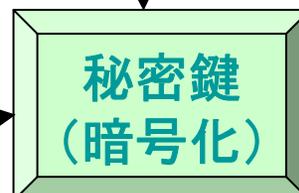
公安委員会が発行

本人認証



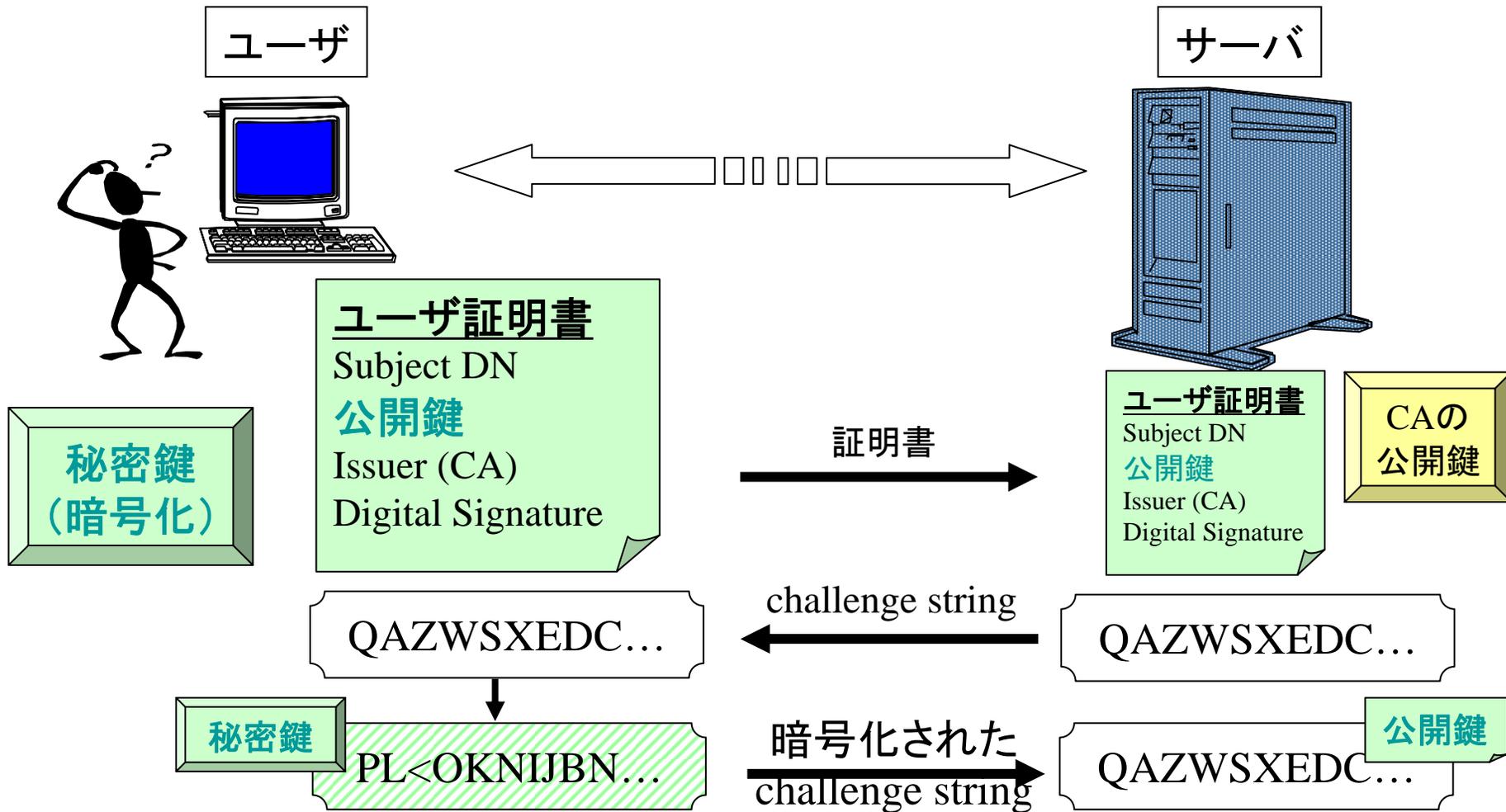
認証局が発行

秘密鍵と公開鍵はペア



GSIにおける認証

以下の例はユーザ認証であるが、この逆方向の認証も行われ、相互に認証する



GSIによる拡張

🌐 Proxy Certificate Profile

- ▶ X.509 (RFC 2459)に基づくProxy Certificate Profile
- ▶ restricted impersonation within a PKI based authentication system.

🌐 GSS-API (RFC 2743)の拡張

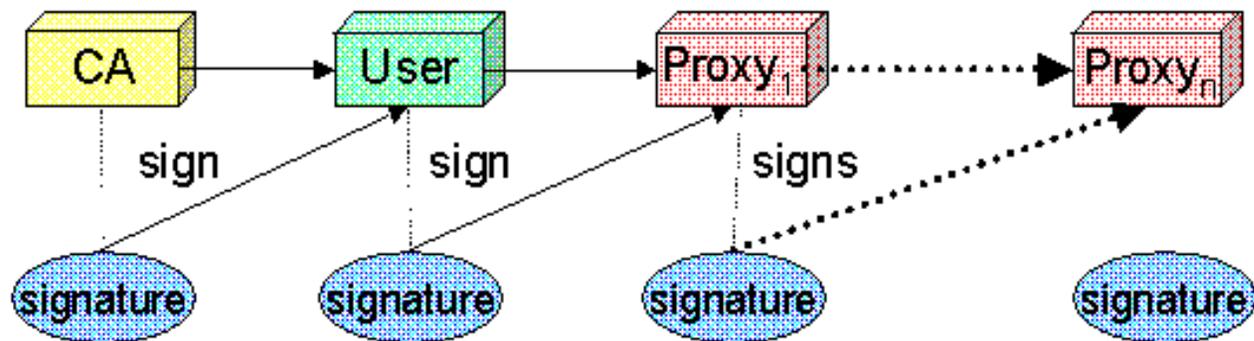
- ▶ Credentialの輸出、輸入
- ▶ 任意のタイミングの委譲
- ▶ Credentialの操作の拡張
 - 🔴 限定されたcredential

🌐 Internet X.509 Public Key Infrastructure Proxy Certificate Profile

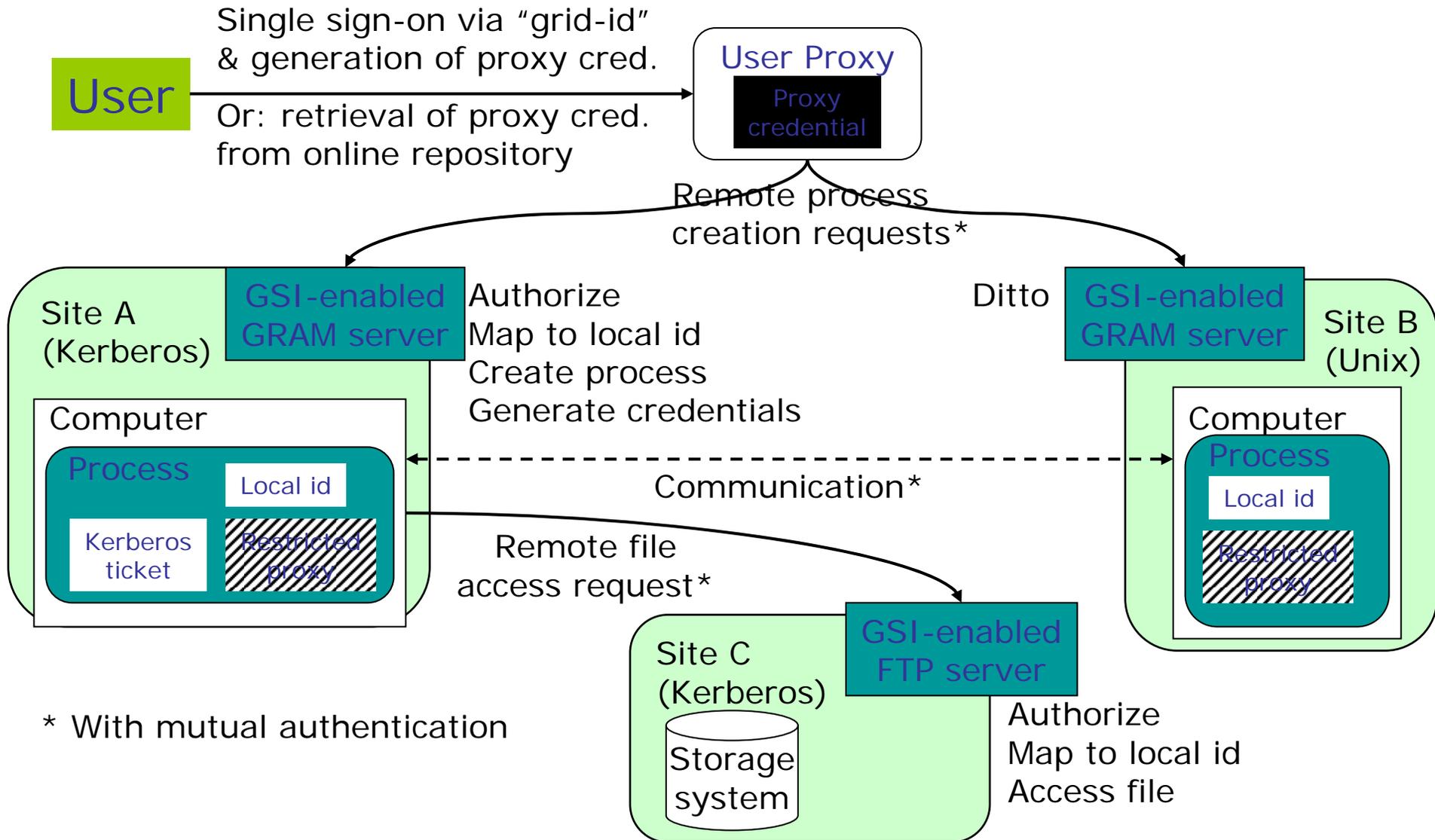
- ▶ RFC 3820 by Grid community – OGF
- ▶ GSS-API Extensions
- ▶ <ftp://ftp.rfc-editor.org/in-notes/rfc3820.txt>

証明書の委譲

- 新たに秘密鍵、公開鍵を生成し、(CAではなく)所有者により署名される
 - ▶ 秘密鍵は転送されない
- 代理証明書と所有者の証明書を受け取り、代理証明書および所有者の証明書の正当性を確認する



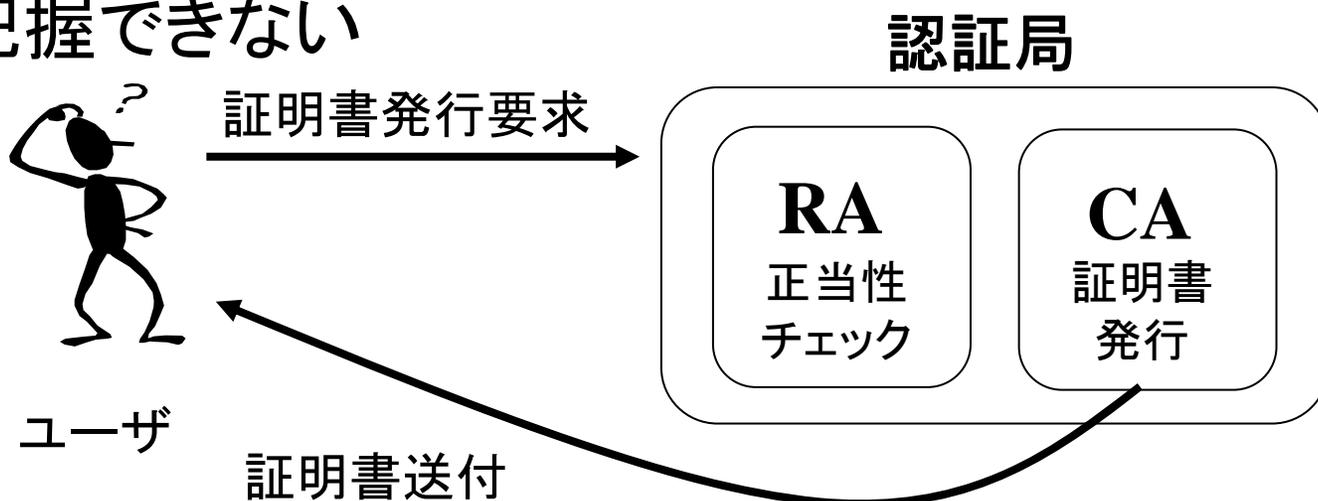
GSI in Action "Create Processes at A and B that Communicate & Access Files at C"



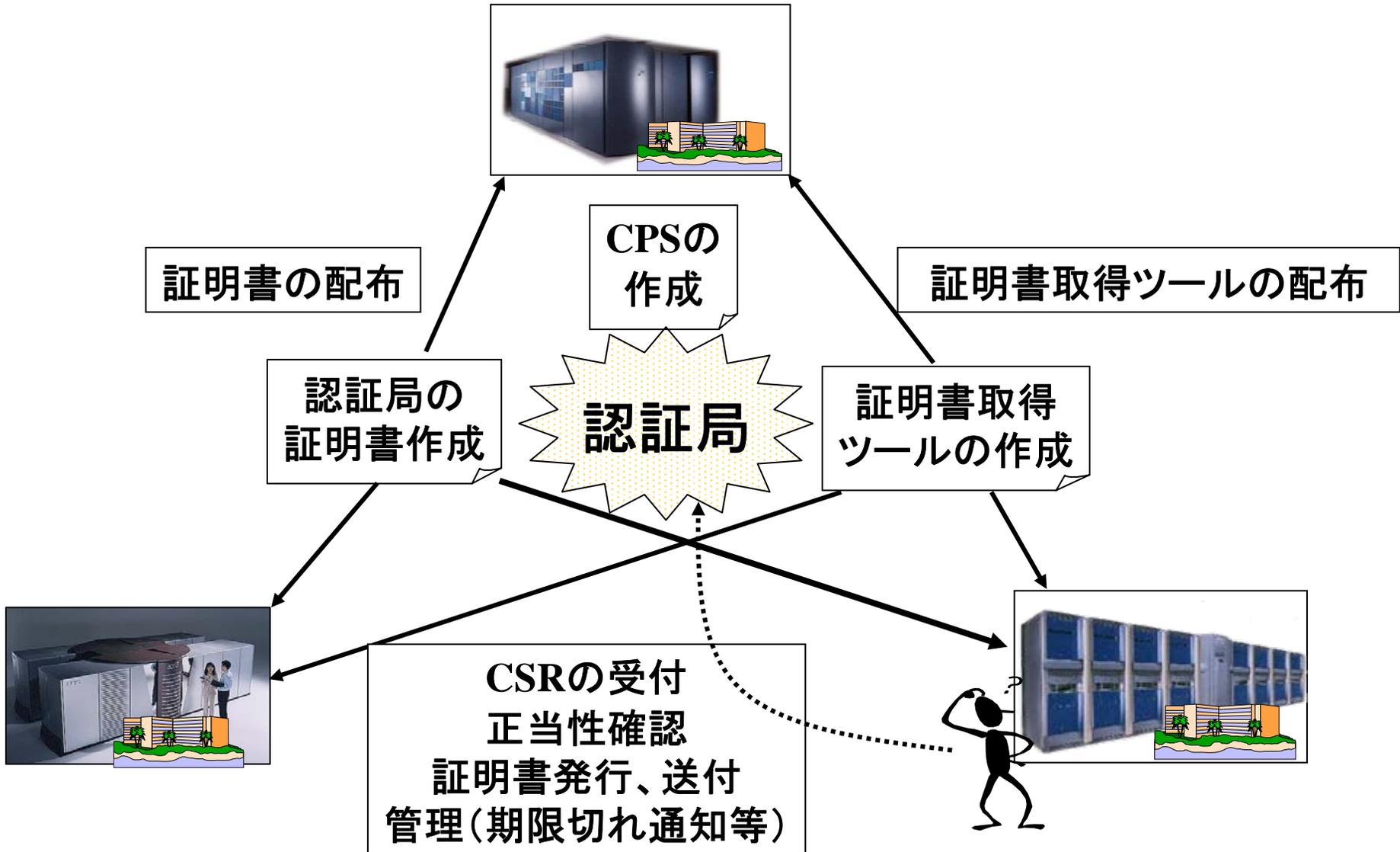
証明書と認証局

● 認証局

- ▶ 証明書を発行する第三者組織
- ▶ RAとCAの2つの役割が必要
 - Ⓞ RA: ユーザ、計算機の正当性をチェック
 - Ⓞ CA: 証明書を発行
- ▶ 発行した証明書がどこでどのように使われるかは把握できない



認証局の仕事



認証局の設定 (Globus Toolkitの場合)

● 認証局 (certificate authority) の設定

- ▶ `$GLOBUS_LOCATION/setup/globus/setup-simple-ca`
 - ⊗ CAのSubject DNの入力
 - ✦ `cn=CA, ou=CS, o=Univ Tsukuba, c=JP`
 - ⊗ Emailアドレス
 - ⊗ 有効期限
 - ⊗ 秘密鍵のパスフレーズ
 - ✦ 電子署名に利用する
 - ✦ スペースは使えない
- ▶ `$GLOBUS_LOCATION/setup/globus_simple_ca_CA_Has
h_setup/setup-gsi -default`
 - ⊗ `/etc/grid-security/certificates`にCAの公開鍵を保存

ホスト証明書の取得

● ホスト証明書の発行要求

▶ `grid-cert-request -host <hostname>`

Ⓢ `/etc/grid-security/hostkey.pem` (秘密鍵)

Ⓢ `/etc/grid-security/hostcert_request.pem`

Ⓢ `/etc/grid-security/hostcert.pem` (空ファイル)

● RAに確認してもらう

● `hostcert_request.pem`をCAに送付し, 電子署名してもらう

▶ `grid-ca-sign -in hostcert_request.pem -out signed.pem`

● 署名された`hostsigned.pem`を受取り, `/etc/grid-security/hostcert.pem`に保存

● 証明書の内容を表示

▶ `openssl x509 -in hostcert.pem -text`

ユーザ証明書の取得

● ユーザ証明書の発行要求

▶ `grid-cert-request`

Ⓢ `~/.globus/userkey.pem` (秘密鍵)

Ⓢ `~/.globus/usercert_request.pem`

Ⓢ `~/.globus/usercert.pem` (空ファイル)

● RAに確認してもらう

● `usercert_request.pem`をCAに送付し, 電子署名してもらう

▶ `grid-ca-sign -in usercert_request.pem -out signed.pem`

● 署名された`signed.pem`を受取り, `~/.globus/usercert.pem`に保存

GSIによる認可の設定

Grid-mapfileに登録

▶ Grid-mapfile-add-entry -dn "/C=JP/O=Univ
Tsukuba/OU=CS/OU=tatebe.net/CN=Osamu
Tatebe" -In tatebe

 /etc/grid-security/grid-mapfileにエントリを追加

GSI-enabled OpenSSHの設定

- `$GLOBUS_LOCATION/sbin/SXXsshd`を
`/etc/init.d/gsisshd`にコピー
- `service gsisshd start`

代理証明書の生成とlogin

● 代理証明書の生成

- ▶ `grid-proxy-init [-debug] [-veriry]`

● 確認

- ▶ `grid-proxy-info`

● GSI 認証によるLogin

- ▶ `gssish hostname`

- ▶ ユーザ証明書が委譲される

● GSI 認証によるftp

- ▶ `gsisftp hostname`

参考文献：グリッドセキュリティ

- Ian Foster, Carl Kesselman, Gene Tsudik and Steven Tuecke. A Security Architecture for Computational Grids. Proc. 5th ACM Conference on Computer and Communication Security, 1998.
<ftp://ftp.globus.org/pub/globus/papers/security.ps.gz>
- Eshwar Belani, Amin Vahdat, Thomas Anderson, and Michael Dahlin. The CRISIS Wide Area Security Architecture. Proc. USENIX Security Symposium, January 1998.
<http://now.cs.berkeley.edu/WebOS/papers/uss.ps>

情報サービス

- 発見、モニタリング、計画、適応的アプリケーションのための基本的なメカニズム
- 多様、多数、動的、地理的分散した資源
- 故障の対応
 - ▶ ネットワーク不通、ノード故障は例外ではなく規則
- 情報の種類
 - ▶ IPアドレス、管理者
 - ▶ CPU、OS、ソフトウェア
 - ▶ ネットワークバンド幅、遅延、プロトコル、論理トポロジ
 - ▶ CPU負荷、ネットワーク負荷、ディスク使用量、負荷
 - ▶

情報サービスの利用例

● サービス発見サービス

- ▶ 新しいサービスの発見

● スーパスケジューラ

- ▶ システムコンフィギュレーション、CPU負荷などより最適な計算資源を選ぶ

● ファイル複製選択サービス

- ▶ 最適なファイルコピーを選ぶ

● 適応型アプリケーションエージェント

- ▶ 実行時の資源状況によりアプリケーションの振る舞いを変化

● 故障発見サービス

- ▶ 過負荷、故障の発見

● 性能診断

- ▶ 性能の低い原因を診断

要求事項(1)

● 情報提供者の分散

- ▶ 分散しているため、全ての情報は古い
- ▶ 情報の信頼度が必要
 - ◎ タイムスタンプ、有効期限など
- ▶ 可能な限り早く、効率的に伝える
- ▶ 一般的に大域的状态の一貫したビューを見せる必要はない
 - ◎ 提供者の数にスケールしない

単一ソースからの状態情報の効率的な伝達に焦点

要求事項(2)

● 故障の対策

- ▶ それぞれの資源、ネットワークは故障しやすい
- ▶ 頑強である必要がある
 - ⊙ どれかの資源の故障が他の資源の情報収集を妨げない
 - ⊙ 部分的な情報、一貫性ない情報の可能性もある

● 情報サービスは、可能な限り分散、非集中化させる必要がある

- ▶ 利用可能な資源の情報を得る可能性を増大

● 故障は例外ではなく、ルールだという仮定のもとに構築する必要がある

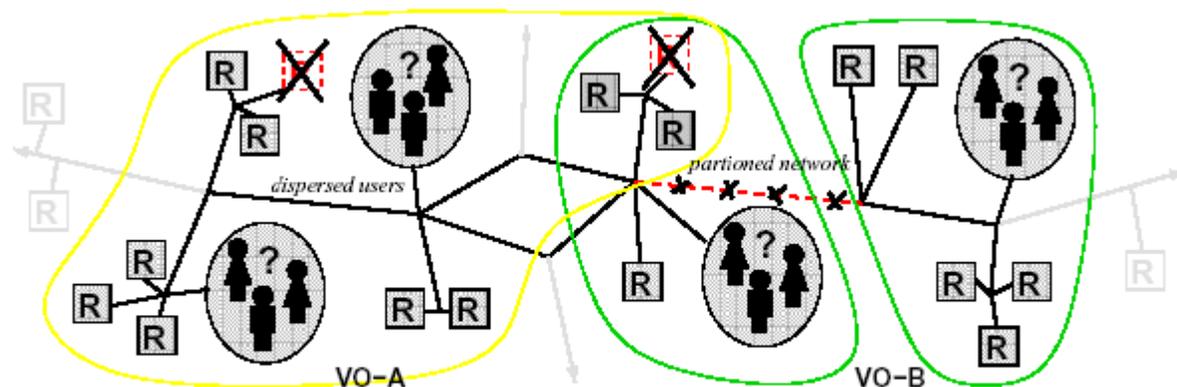


Figure 1. Distributed virtual organizations. Users in VO-A and VO-B have access to partially overlapping resources. While VO-B is split by network failure, it should operate as two disjoint fragments.

要求事項(3)

● 情報サービスコンポーネントの多様性

- ▶ 多くの、多種多様な資源があり、発見、モニタリングに対しそれぞれ独特な要求があるかもしれない
- ▶ 十分な発見、モニタリング手法を準備する必要がある
- ▶ 複数の管理領域に含まれるため、多種多様なアクセスポリシーがある
 - ◎ アクセス制御

Globus MDS Approach

Based on LDAP

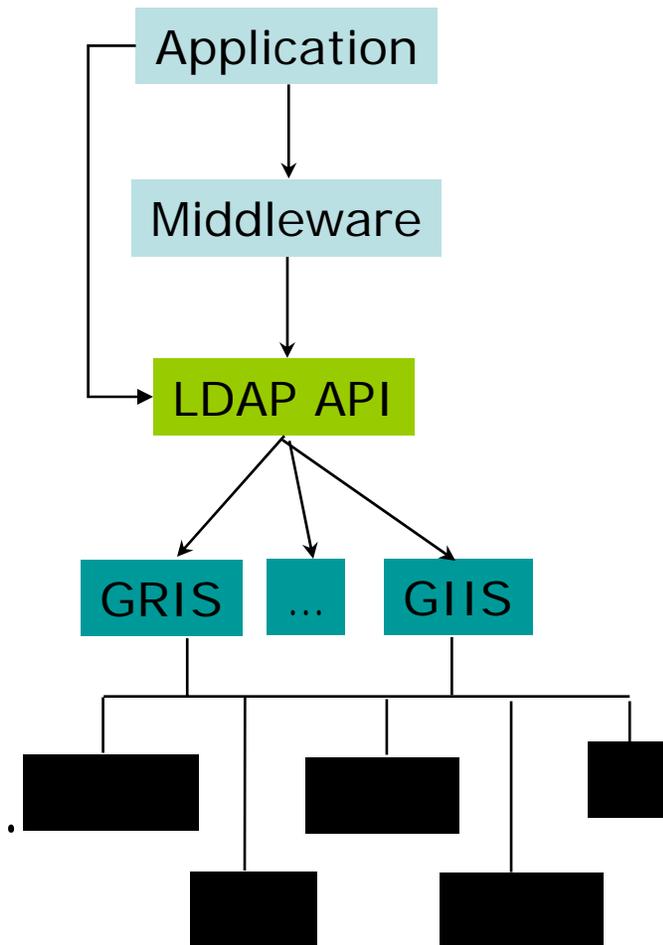
- ▶ Lightweight Directory Access Protocol v3 (LDAPv3)
- ▶ Standard data model
- ▶ Standard query protocol

Globus Toolkit schema

- ▶ Host-centric representation

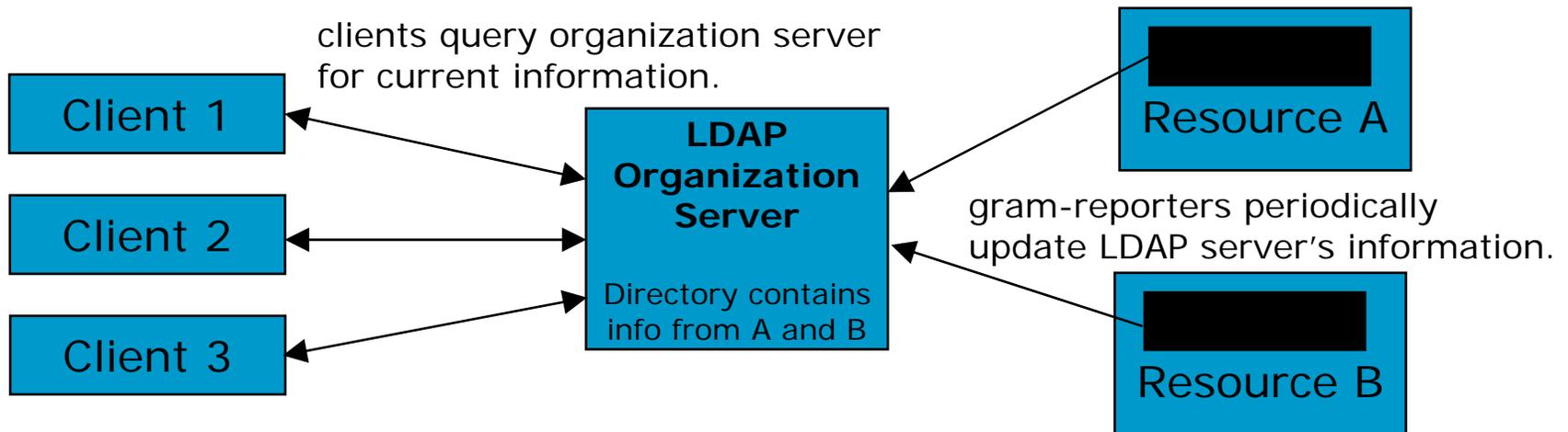
Globus tools

- ▶ GRIS, GIIS, gram-reporter
- ▶ Data discovery, publication,...



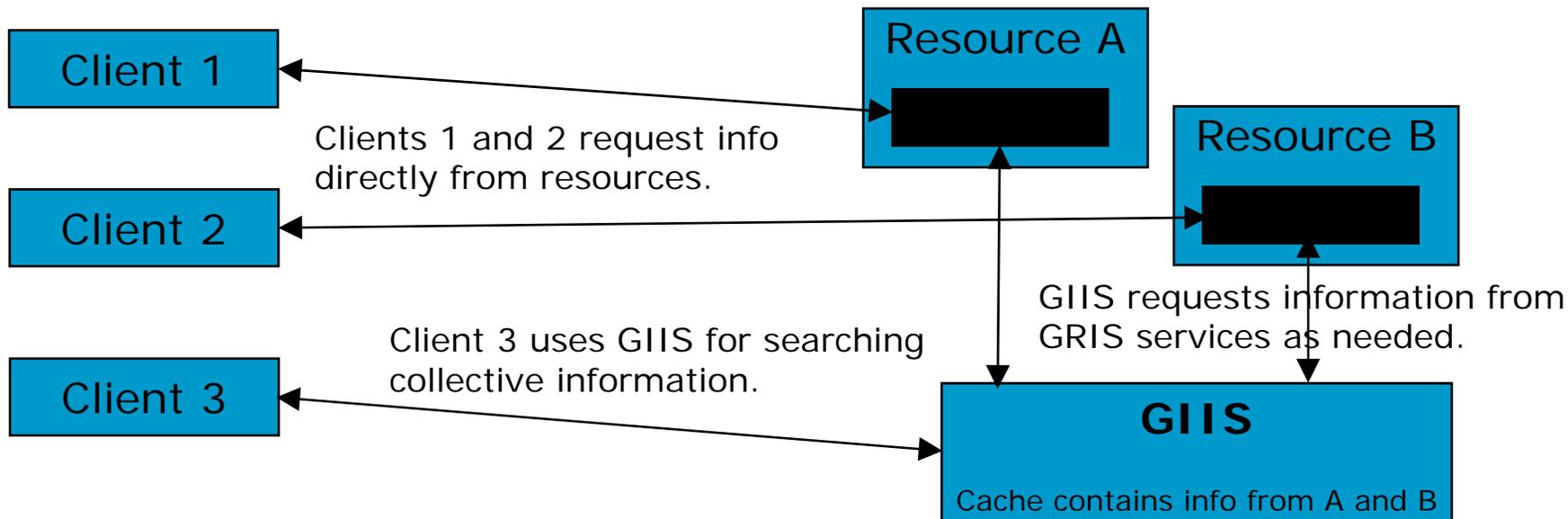
“Classic” MDS Architecture

- Resources push information into a central organization server via regular updates (globus-gram-reporter), where it can be retrieved by clients.
- Regular updates don't scale as the number of resources grow rapidly. Commercial LDAP servers are optimized for “read” requests, and can't handle frequent “write” requests.
- If organization server is unavailable, no information is available.



“Standard” MDS Architecture (v1.1.3)

- Resources run a standard information service (GRIS) which speaks LDAP and provides information about the resource (no searching).
- GIIS provides a “caching” service much like a web search engine. Resources register with GIIS and GIIS pulls information from them when requested by a client and the cache as expired.
- GIIS provides the collective-level indexing/searching function.



MDS (Metacomputing Directory Service) の構成要素

Grid Resource Information Service (GRIS)

- ▶ 特定のリソースに関する情報を提供
- ▶ 複数の情報プロバイダをサポートするように設定可能
- ▶ 問い合わせにはLDAP プロトコルを用いる

Grid Index Information Service (GIIS)

- ▶ 複数のGRISサーバで集めた情報を提供
- ▶ 複数のGRISサーバに分散した情報を効率的に問い合わせることを支援
- ▶ 問い合わせにはLDAP プロトコルを用いる

参考文献：情報サービス

- K. Czajkowski, S. Fitzgerald, I. Foster, C. Kesselman. Grid Information Services for Distributed Resource Sharing. Proc. Tenth IEEE International Symposium on High-Performance Distributed Computing (HPDC-10), IEEE Press, August 2001.

<http://www.globus.org/research/papers/MDS-HPDC.pdf>